

○腸炎エルシニア *Yersinia enterocolitica*

本菌の感染経路は、豚肉が多いと考えられているが、各種動物の保菌率も高く、イヌやネコそして汚染された山水などが考えられる。1982年 食中毒原因菌に加えられた。Y pseudotuberculosis と共に人獣共通感染症として位置づけられている。

YE 及び YP は 4℃ の冷蔵庫内でも増殖できる。

↳ 保存血（汚染された）を輸血して敗血症、DIC を起こして死亡した例がある。5/10 死亡。

献血時の問診に 1 ヶ月以内の発熱を伴う下痢の項があるのは、YE の汚染を警戒してのこと。

〔病態〕

下痢の持続時間長い（14 日/Ave）

潜伏期 3-7 日と長いので感染源の特定が困難。日本の集団食中毒は 3 日。

臨床症状は多彩。

胃腸炎型 { 小 児 … 発熱、下痢など
5 歳 ~ 大人 … 右下腹部痛を伴う偽虫垂炎症候群

腸管リンパ節 / 回盲部は腫れる。

↳ 急性虫垂炎として切除手術を受けることもある。

敗血症型 … 基礎疾患を有する患者に発生することが多い。

続発症 免疫が関与していると考えられている。

- 結節性紅斑 … 中年以上の女性に多い。
- 関節炎

〔治療〕

自然治癒傾向が強いが、重症例は抗菌薬療法の適応と考えられる。

Ciprofloxacin + ceftriaxone、gentamicin + ceftriaxone、テトラサイクリン系、ST 合剤などが選択される。マニュアルにはこのように書かれていたが、確認が取れたのは gentamicin と levofloxacin で、エルシニア感染症全般に有効と考えられた。YE は β ラクタマーゼを産生しており、ampicillin は有効ではない。3 歳児の例では gentamicin, 5mg/kg/day の投与で発熱、CRP とも下がったとの報告がある。

only.